

# 夢追人

## 地酒を

## んでももらいたい!



(有)中村商店

中村 美由紀さん



「地元の人に地酒をもっと楽しんでもらいたい!」。中村美由紀さんがこう望むようになったきっかけは、9年前の新潟旅行にさかのぼる。全国的に有名な雪中梅や越寒梅を作っている蔵元を訪ね、蔵を見学させてもらいながら、社長や杜氏さんから話を伺うことができた。その中で、もちろん醸造の過程も参考になったが、イチバン印象に残ったのは、彼らが持っていた「地元の人に美味しい地酒を飲んでもらいたい」との意気込みであった。販売店もまた然り。地酒を中心に品揃

えをしている。

ところが自分の地元はそうではない。「城島 筑後二円は酒の二大産地と言われながら、目が向けられるのは他産地のプレミアム商品ばかり。地酒のよさをもっと評価すべきではないだろうか。よしし帰ったら…発掘作業をやってみようかあ…」。折しもそんなとき、中学時代の恩師で、洋画家の野口先生がペルー、アンデスの村に学校を建てるチャリティーを始めよ

うとしているのを聞いた。「ええ、すごいっ! 私も協力したい…。そう、それも地元のお酒で!」

早速 有薫、若波、高橋商店の蔵元へ。「既存の商品でなく、オリジナルをおく!」とペルー支援の意図も説明しながら必死でお願いしたところ、3社とも快く応じてくださった。大吟醸、特別本醸造、特別純米酒の絶品がそろった。ネーミングはどうしよう。思案のあげく、

# 地元の人に もっと楽し



「インディオの唄」「ペルーの学び舎」に決まった。そして収益の1割を寄贈することにした。ラベルの絵はもちろん野口先生が描いた作品を使いたい。でも当時は規制があり、ラベルには、アルコール度数、原材料名、醸造元、清酒、ミリ数、製造年月日等を明記する制約があった。「これを入れたら、せつかくのイメージが損なわれてしまう！どうしよう…：かあ」。今度は、税務署の酒類指導官のもとに、何度も足を運んだ。チャリティーと言うこともあり、規定の項目は裏ラベルということでも何とか承諾してもらった。こうして嬉しい発売へ。平成5年の5月1日。ちなみにア ندエスの学校も同年9月に落成式を迎えることができた。(チャリティーへの協力は今も続けている。)

それをきっかけに、以降、地元の筑後の蔵元と交渉を重ね、中村商店独自のブランドを開発していった。そして今では、「とつておきの秘蔵酒」「中村大吟醸」「寿酔」「昇開吟醸」「麦の極」「はなまる」など20数アイテムになっている。「地元の人に地酒をもっと楽しんでもらいたい!」という美由紀さんの望みが実現しつつある。

大川木工まつりの即売会場で売り出す  
「九州の秘酢 麹黒酢」



さて、中村商店には別の特徴もある。パンフレットにはこう書かれてある。「当店独自の美味しいお酒であなただけのラベルを作りませんか」。なんと消費者オリジナルのラベルを貼ることができる。スナック、料飲店からの注文が多いが、だれでも1本から、無料で注文できるのがうれしい。記念品、引き物などにぴったりだ。



今月開かれる大川木工まつりの即売会場では、新しい企画商品「九州の秘酢 麹黒酢」を売り出す。これもまた地元蔵元との提携商品。これは本来は本格焼酎を製造するため使用される黒こうじ菌の一種である、アスベルギルス・カウチ菌を使って作る。豊富な天然クエン酸に、純粹の黒砂糖を加えてある。市販の黒酢で、これほどの天然クエン酸を含んだ商品はなそうだ。各種アミノ酸がふんだんに含まれているため、健康にも良さそうだ。

中村さんにはこれからも地元の良さを発掘し続けてほしいと思う。